

タイの水田風景



イサーンの憂鬱

檉原 正澄

ドンムアン空港を飛び立つこと暫し。喧噪と交通渋滞のバンコクを離れ、タイ湾上空をプロペラ機は滑走するように南下を続ける。眼下には穏やかな紺碧の海が広がり、目的地サムイ島を指してゆっくりと飛行を続ける。

タイのリゾート地としては、「東洋のリビエラ」と称されるパタヤ・ビーチが有名である。「アンダマン海の真珠」という別称とともに、プーケット島も多くの人に知られており、今や日本からの直行便が飛んでいる。近年、人気の高いリゾート地が、十数年前から観光開発されたサムイ島である。以前は、電気も水道も通っていない、静寂の秘島であった。今では、外国人観光客に最も人気の高いリゾート地の一つとなっている。

ドンムアン空港を後にすること、一時間二〇分。サムイ空港到着と同時に、乗客の身体は一瞬にして歓喜に包まれた。誰もが、「すばらしい！来て良かった！と、身体全体で歓びを表現せずにはおられない。そこには、椰子の木の自然を上手く活かした、南国情緒たっぷりの空港の姿が、眼前に展開しているのである。

サムイ島のビーチで、一日中んびりと過ごしていると、物売りの声が忙しない。その一人チャン氏が、ビーチで覚えた英語で語りかけてくる。

「ここは、初めてかい」「サムイ島は初めてだよ。これから、イサーン（＝東北タイ）のコーン・ケーンに行くつもりだよ」「なに、コーン・ケーンへ行くのかい！俺は、イサーンのラオス国境近くのノーン・カリーの出身だ。」「どうして、サムイ島まで来たんだ？」「ノーン・カリーで一生懸命働いても、一日五〇バーツにしか、なりやしないのさ。ここでは、一五〇バーツの稼ぎだよ。二年前に、家内と子供も一緒に来たのさ。ノーン・カリーは、良いところ無しさ。」

一九八五年秋のブラザ合意以降、直接投資が増大し、タイ経済は急成長を遂げてきた。九二年現在のGDPは約二兆八〇〇億バーツ（約二一〇〇億ドル）と、日本の三三三の一、韓国の約三分の一程度の経済規模に到達している。

一人当たりGDPも確実に上昇しているが、経済成長に伴って地域格差が拡大している。国家経済社会開発庁（NESDB）の策定した第七次経済社会開発計画（一九九二～九六年）でも、経済発展に伴う不均衡の是正を解決すべき重要課題の一つとしている。

経済発展の中で、アジア諸国における農業生産の発展は相対的に遅れており、食糧自給に不安を抱え始めている。農業大国タイにおけるイサーンの憂鬱は単なるタイ一国の問題ではなく、世界の食糧・農業問題や地球環境問題と密接に関連する問題となってきた。

国際化時代における農業・食糧問題は、もはや視野を一国に限定しては解決しえないのであり、地球市民としてのグローバル・ネットワークの構築が求められているといえよう。

(経済学部助教授)

HEADLINE

- | | | | |
|-------|-----------------|----|--|
| 8面 | 4・5面 | 3面 | 2面 |
| 面 | 特集「情報メディアと大学生活」 | 面 | 迷惑駐車・駐輪について
関大フォーラム
「セメスター制について」 |
| 研究室訪問 | | | |

千里眼

最近、話題となった言葉に次世代高品位テレビと次世代無線ネットワークがある。いずれも郵政省が推進

策を打ち出している。これに伴いマルチメディアへの関心が急速に高まっている。考え方は文化が大きく変わる問題でもある。「マルチメディア社会」の出現は、これまでの言語に加え、映像をコミュニケーションの手段に使うことであると表現できる。一方では、現代の大衆社会を風刺しての「観客社会」という表現がある。有名な私生活だけでなく、皇室の話題をも何か「ショー」を見る観客の視線として、とらまえてようとしている。その発端的役割を果たしたのが、あのハイテクを駆使した「湾岸戦争」であった。あたかもテレビゲームを観る感覚で社会の是非を論じた人々がいたかも知れない。マルチメディア社会と観客社会が併合した場合、大きな問題を生じることがある。その典型的なのが「オウム真理教事件」であろう。松本サリン事件の第一通報者（被害者）をあたかも犯人であるかのように伝えた報道がなによりである。それを正すのに一年近くを要した。問題なのはハードではなくソフトである。大切なことは情報と道具をどう使い熟するか、という視点で考えることである。(H・M)

彦俊

電子メスは、電話の苦手な無精といふ二重苦の私にはありがたい。二つの頃は、電話も手紙も礼儀を気にしてしまつたのである。電子メールの世界では、「あなたの相手に何を伝えたいかな」の必要はないかを考慮しなくてよい。これ以外ではあなたの相性は満ち足りてゐるかという情報が美徳である。とはいえ、私自身もまだ、時候の挨拶や手紙の忙しな時代では、オンラインコミュニケーションでは関係の表現に男女の言葉遣い違いを感じてよくなる。マ

山本 慶介

しゃべる方の時間の特性は少しやべる方の時間特性は少し代わって聞く方の時間は奪われる、という感があるのではない。どうしてもあなたの方が聞きたい、というときだけ電話や会議にしたい、というあなたが聞きたい、というあなたが世の中には相当多いよである。

インターネットが今日のよう

岩見 和彦



高梅さわか

気(き)の合(あ)い(い)は電子メールを使(つか)って文(ぶん)通(つう)してたりもして
てい(い)ひ(ひ)ではな(な)い(い)ので、そのふん(ふん)気(き)
を使(つか)う(う)こ(こ)もあ(あ)り(り)ま(ま)す(す)が、実(じ)
害(がい)が及(およ)ば(ば)な(な)い(い)、喧(けん)嘩(か)をし(し)て
も怪(かい)我(が)を(を)し(し)な(な)い(い)、等(とう)という安(やす)
い(い)お(お)も(も)た(た)ず(ず)顔(が)も見(み)て話(わ)し(し)
し(し)よ(よ)、と集(あ)ま(ま)って遊(あそ)んだ(だ)り
し(し)ま(ま)す(す)が、想(かん)像(ざう)と現(げん)実(じ)のギャ
ップ(っ)も、また楽(たの)しい(い)もの(の)なの(な)です(す)。

松尾 俊一

れた休講も電話一本でキャンセルできた。が、欲をい
えは、パソコンやワープロだ
けなく、電話やファックス
でもその情報が引出せる
ようにして頂きたい。

松尾 俊一

高尾友紀

パソコン通信を利用するにあのるのは機械的な兄を相手にしてという感覚が薄れるためである。

また、パソコン通信は文字を利用したコミュニケーションであるため、身振りや視線、態度、表情といった非言語情報が強制的にカットされてしまっている。そして、相手が男性なのか女性なのか、何處からいなのかなど個性がよく分からないことが多いため、利用者の注意は相手よりメッセージそのものに集中する。その結果、適切な言葉の解釈がでずかったり、相手

宮田 薫

私がパソコンを購入したのもその理由は、半ば必要に迫られることであった。と言うのは修士論文のテーマがリ・エンジニアリングに関する事であるために参考文献がかなり少なく、私は国内外の文献を探索する必要性を感じたからであった。

私は、図書館で「IBIS C 国立国会図書館蔵書目録」や学術雑誌総合目録並びに「H.A.S.K. 朝日新聞全」

文記事情報などをCD・R OMで検索し、検索結果をプリンタアウトすることによって文献リストを作り、自宅ではKUレタ図書館の蔵書検索を行い、エディタでデータを修正を加えて文献リストを作成した。

その文献リストのおかげで何とか体系的に整った修士論文が完成したのであるが、パソコンの恩恵をそれだけではない。私は、今の原稿の音楽

富田 薫

哥 們

つ。情報メディアといつて、つたの映像や音技術の発達したものをさす方が、新聞や雑誌のように、活字や紙を介するものといふものが多い。多様化が目まぐるしいように思ふこともなきに。

「情報」を扱う手段

秋光 史子

図書館の本を眺めて、心にかけて。文章は伝えたい情報には必ず人の手加わつてゐるが、情報といふのはそもそも受け取りの人をさがして掲げて、だから

小林 泉美

私は機械が嫌いです。何
世界においても人の力が増
てきているものが一番だと思
っています。家では炊飯器を
わす昔ながらのお鍋でパ
器は性能が良 おおいこの
微のお米が立つ、炊飯に



手仕事と機械

小林 泉美

インターネット上に開設

この数カ月、インターネットに関する記事が毎日のように新聞紙上に掲載されるようになってきた。その中でも、**「整備しつつある日本の環境教育」**という記事が、昨年度開西大学のホームページを開設し、インターネットを通じて全世界に情報を公開することができるとよく知られた。

提供する情報の内容は本学の国際交流センターで編集・刊行している英文案内（A Guide）に基づいたもので、情報処理技術の協力を得て、産業技術研究所の情報ネットワーク研究所の情報ネットワーク研究電子情報通信技術センター（電子情報通信技術センター）文に限られ、一年間の試験の運用中に本格的運営の方針を定め、広く西大の学的情報的的確に速やかに発信する体制を整える予定である。

西大のホームページへのアクセスは学内からは T C P / I P 接続（N B I E 用）に、からは A S / I N E の二の民間のインターネットのラフザソネットのラフザソエアを用いることに可能である。

ホームページの（U R L）は <http://www.ikansai-u.ac.jp> となる。

日下 幸治

最近、学生の間でのコミュニケーションの形態が、大きく変わった。最近といっても、ここ数年の間であるが、全く新しいいはいの改革であつた。さまざまな変革に共通して

つても、どこでもは間違ひなく相手がつかまえることができた。ここに、コミュニケーションの欲求に対するストレスが存在しない。ボケバルは、その欲求をより手軽に実現してゐる。もともとサラリーマンが仕事の連絡用にははめたボケバルも、今や、学生にとつて欠かせないツールの一つとなつてゐる。

学生はボケバルで連絡以外にも具体的な用件を伴わない「メッセージ」を頻繁に送る。「おはよう」など何となくではないメッセージでも、それで十分コミュニケーションに対する欲求は満たされる。

情報メディアの発達は、学生にますます頻繁なコミュニケーションを促し、ユーザーの欲求がまた、情報メディアを発達させている。

今、学生のコミュニケーションの欲求は待たないほど、激しいのであつた。

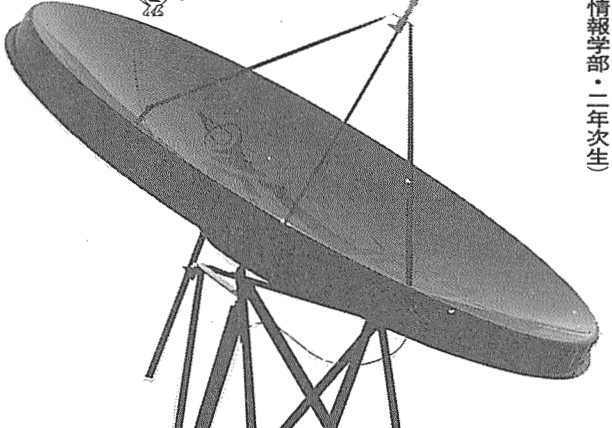
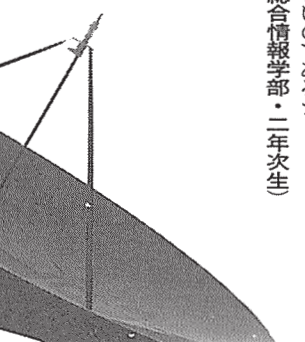
(総合情報学部・2年次生)

このころ、キャンパスのあちこちに「ダイヤル」を持った学生が目につくやうになつた。電話とこのものは、当然、相手が電話のあるところ、すなわち、相手が家に居る時にしかできなかった。

ところが、携帯電話は、い

即時コミュニケーションの時代

日下 幸治





紙以前

世界最古の書物は、粘土に文字を刻んだ陶板(粘土板・瓦本)であるといわれ、その起源は紀元前三千世紀にさかのぼる。文字の発明は、事物を記憶と口承によって後世に伝承する時代から、記録物を媒体として伝承する時代へと人間社会を大きく変えた。古代人たちは身の回りの植物・動物・人物などの中から適当な書写材料を探し出し、それに様々な情報を記録して後世に伝承してきたのである。それは、主として古代文明の発祥地において特徴的な現象といえる。メソポタミアの陶板はまさにそれであり、同じくエジプトのパピルス本(紀元前二十五世紀頃)、中国の甲骨文書(紀元前十四世紀頃)、簡策(紀元前八世紀頃)、帛書(紀元前五世紀頃)、小アジアを中心として代ギリシャ・ローマにおいて使用されたパチメント本やヴェラム本(紀元前三世紀頃)、古代インドの貝多羅葉本などがそれである。

製紙法とその伝播

一般に、書物がその機能を果たすために必要な基本的要素として、①読むのに便利、②携帯に便利、③保存に便利、④経済性、などが要求されるが、歴史的にはこれらの要件を模索しながら書物形態が変遷してきたものと思われる。紙の出現は、まさに書物の成立要件を満たすに十分なものであった。一〇五〇年、中国の蔡倫(後漢宮中の役人)が完成した製紙法は、東は朝鮮を経て六〇〇年に日本へ、西はシルクロードの旅を経て十二世紀以降にヨーロッパ各地へ伝播していった。紙料に楮・雁皮・三桠などを使用した日本の紙は、やがて世界最高の品質を誇る「和紙」としてその名声を高めていくのである。

整版本

中国で発明された木版(整版・印刷術(七〜八世紀頃))がわが国に伝来したのは奈良時代である。一九六九年十月

写本

印刷術発明以前の書物はすべて手書きであった。紙本の形態も初期は巻子本で、わが国では聖徳太子自筆稿本「法華義疏」(六四一〜一五五年)が最初の著作とされている。平安時代には冊子本が出現するが、文学と絵画の一体化した「源氏物語絵巻」(扇面法華経)や「平家物語」の装飾経などにみられる美術工芸的な巻子本や粘葉装本、室町後期から江戸初期にかけて出現し

近世までの情報伝達メディア

「蔵書が語る本の文化史」展に寄せて

藤井 収



「グーテンベルク42行聖書」(複製)
旧約聖書・詩篇部分

刷術が興って来た。活字には木活字本「貞観政要」(二六〇陶活字(十一世紀中頃)、木活字(十四世紀初頃)、鉛活字(十五世紀中頃)、銅活字(十六世紀後半)などがある。なかでもJ・グーテンベルク(一四〇〇?〜一四六八)の鉛活字・油性印刷インク・印刷機による活版印刷術によって印刷された「四十二行聖書」に代表される十五世紀後半の刊本(約四万点)はインクナブラ(揺籃期本・初期刊本)と呼ばれ、印刷文化を通じてヨーロッパの歴史に大きな変化をもたらした。そして、わが国には一五九〇年(キリスト教伝道者フリニャーノ)によって九州肥前(現佐賀)に伝えられ、切支丹禁止令(二六二一年)が出されるまでの二十年間に約三十点に及ぶギリシヤン版(天草版)が出版されている。

活字本(日本)
わが国の活字印刷は、一五九三年、豊臣秀吉の武将たち

聖徳太子自筆稿本「法華義疏」(複製)

活字本(西洋)
木版印刷術に続いて活字印

活字本(日本)
わが国の活字印刷は、一五

◆平成七年度秋季特別展
「蔵書が語る本の文化史」
会期 十月十五日(日)〜十一月四日(日)
(祝日・十一月四日を
除く午前十一時〜午後七
時)ただし、日曜日は
午後五時まで
会場 総合図書館
一階展示室

公企業論

答える人
安部 誠治

ラインとは都市機能を維持する装置体系のことですが、私の専門との関係でいえば、公営事業と重なる概念です。それで、現在は大震災とライフラインの問題を集中的に勉強しています。

今回の大地震でも、ライフラインの中で、阪神高速の倒壊や山陽新幹線の高架橋の設置された地震計で制御する

研究室訪問

新幹線の
地震対策は
万全か



高架橋が落下した山陽新幹線
(新大阪〜新神戸間)
=JR西日本提供=

落橋など大きな被害がでました。新幹線の地震対策はどうなっていますか?
現行の新幹線の地震対策は大きく、①「耐震設計指針」に依拠した構造物対策、②耐震列車防護システム、つまり地震時の列車の緊急停止システム(二つ)からなっています。既設の四つの新幹線の中で、構造物の点検対策が進んでいるのは一九七八年の波が沿線に到着する以前に列

車を緊急停止させるというシステムです。地震波が海岸から沿線に到達するまで、平均二十五秒かかるので、この間に時速二四〇キロの列車ならそれを一九〇キロ以下に減速できるというものです。
大震災後、どのような対策がとられたか。
運輸省は新たに「耐震基準検討小委員会」を発足させ、

KUカレンダー

- 10月6日(金) ◆英語Ⅲコース選択受付(第1部、20日まで)
- 11日(水) ◆経済研公開講座(13:00 図書館3Fホール)「現代の家族問題」社会・大和礼子専任講師
- 14日(土) ◆経済・ゼミガイダンス
- 15日(日) ◆行政研講演会(16:20 第1学舎B101R)「公務員志望の学生へ」
- 16日(月) ◆総合図書館秋季特別展「蔵書が語る本の文化史」(図書館、11/19まで)
- 19日(木) ◆本・自己推薦書受付開始(総合情報編・転入試験) (総合情報編・転入試験) (総合情報編・転入試験)
- 21日(土) ◆第2外国語Ⅲ(コミュニケーション) (コミュニケーション) (コミュニケーション)
- 23日(月) ◆第2外国語Ⅲ(コミュニケーション) (コミュニケーション) (コミュニケーション)
- 24日(火) ◆第2外国語Ⅲ(コミュニケーション) (コミュニケーション) (コミュニケーション)
- 27日(金) ◆第2外国語Ⅲ(コミュニケーション) (コミュニケーション) (コミュニケーション)
- 30日(月) ◆第2外国語Ⅲ(コミュニケーション) (コミュニケーション) (コミュニケーション)
- 11月4日(土) ◆進学相談会・トライキャンパス(第2学舎 経商ゼミ棟)
- 8日(水) ◆経済研公開講座(13:00 図書館3Fホール)「大都市とライフライン」
- 12日(日) ◆商・安部誠治教授(全学部)
- 15日(水) ◆外国人留学生入試(総合情報を除く)
- 22日(水) ◆編・転入試験(総合情報・社会人・帰国生入試)
- 24日(金) ◆第1部教員採用模擬試験(13:00 第1学舎A204R)
- 25日(土) ◆第2部教員採用模擬試験(16:30 第2学舎A307R)
- 26日(日) ◆指定校推薦推薦入試(法を除く)
- 28日(火) ◆商・公募制推薦入試
- ◆総合情報・帰国生推薦入試
- ◆経済研産業セミナ「航空機リース事業」
- ◆総合情報・産業界と証券化
- ◆総合情報・産業界と証券化

今回は11月30日発行の予定です

今月の表紙



榎原 正澄(かしはら・まさみず) 助教授 専攻は農業経済学。とりわけ青果物流通論、都市農業論に関する業績が多い。近年は海外の農村実態調査にも参加し、研究の視野を広げている。



編集後記

夏の暑さが厳しかったのか、長い間ほっとおいたからか、それとも気のせいかわからない。フドウは、甘みが殊のほか濃厚で、甘みがある。おいしい実がなるというの、妙な話です。干しタコを持つて来てくれたおじいさんの話では、「今年は震災でもうひとつ」。こちらは限度を超えた悪環境というところでしょうか。
さて、本号は特集「情報メディアと大学生活」にせよ、特集になった新刊紹介にせよ、いつもより大勢の方に登場して頂きました。それぞれに味のあるフドウの粒であることを期待します。
早いもので、本号が現委員会が編集する最後の号となりました。執筆者はもうそろそろ、裏方で協力いただいた皆様にも、心からお礼を申し上げます。(佐藤記)